

令和6年度第1回自立支援協議会テーマ別部会
高次脳機能障がいのある方への就労及び社会参加支援について 議事要旨

1. 開催日時 令和6年9月30日（月） 10時～11時30分
2. 開催場所 まちづくり活動プラザ 1階会議室
3. 出席者 （委員）＊団体名のみ記載
（医）城東桐和会、（株）徳正、（株）ONE TO ONE、（労協）ワーカーズコープ・センター事業団、和洋女子大学、（特非）いちされん、（福）佑啓会、（特非）タオ、（株）ココルポート、障がい事業課
（事務局）
浦安市基幹相談支援センター
4. 議事次第
 1. 開会
 2. 議題
 - （1）自己紹介
 - （2）プロジェクト構成についての説明と意見交換
 3. 閉会
5. 配布資料
 - 議題2資料1 浦安市自立支援協議会について
 - 議題2資料2 委員名簿と役割（案）
 - 議題2資料3 浦安市×タムス浦安病院（高次脳機能障がい外来より）
6. 議事要旨
 - （1）自己紹介
各委員より、自己紹介を行い、高次脳機能障がいがある方への支援等について情報共有を行った。

■主な意見

- ・高次脳機能障がいのある方は増加しているとともに、障がい名だけでひとくくりできないと感じることから、十人十色で個々にあった支援が必要であることから難しい面もある。
- ・障がいの特性も様々（記憶障がいの方、感情コントロールが難しい方、障がい受容がまだ出来ない方、遂行障がいの方など）で、どこから支援を始めればよいか迷うことも多い。
- ・周囲を巻き込んで理解してもらうことが大切だと思う。高次脳機能障がいのある方への支援においては仲間づくりが重要である。
- ・福祉だけで支援を行うことは難しいため、地域で自分らしく生活できるように部会を通して様々な社会資源とのネットワーク関係を構築していきたい。
- ・医療から手が離れた先に就労や社会参加があり、まだまだ不足している部分であるため、今後のリハビリの支援に活かしていきたい。

(2) プロジェクト構成についての説明と意見交換

■説明（事務局）

プロジェクト構成案等について説明した。

■主な意見

- ・医療と就労支援で捉える「重度」の認識のギャップを埋める必要がある。
- ・就労意欲があり、就労アセスメントが取れている方であれば現実的な検討ができる。
- ・最初は医療の比重が重く、制度利用のための手続きに時間を要して、ようやく社会復帰の流れになるため、就労支援につながるまでが当事者の方が大変な部分である。
- ・福祉的就労の方が割合が多いのではないか。受傷前の仕事にそのまま復帰できないことも多くある。
- ・障がい受容の課題も大きく、身体的な回復後、すぐに治ると感じる人もおり、自分はどんな仕事であればできるのか等の理由で悩む方も多。以前の仕事はできなくなり、先行きの見えなさから鬱的な状態になる方もいる。
- ・就労支援の観点からいうと、支援の難しさは記憶に関する障がいへの支援及び、脳疲労に対する配慮であり、支援環境がシステムとり、整えることで就労が可能となる。
- ・市内の高次脳機能障がいに関する相談で多いのは、脱抑制（感情コントロールが難しい方）である。
- ・診断がなかなかつかない方も多。
- ・高次脳機能障がいの支援過程は下記のとおりである。

